

軽米町百人委員会平成28年度第2回スポーツ・文化・観光部会議事録

○開催日時：平成28年9月4日（日）午後1時30分～午後15時

○開催場所：軽米町役場庁舎3階会議室

○出席者

委員：22人中10人出席（古舘壽郎、田名部晴夫、菅原洋子、千葉千賀、荒澤作郎、新井田静夫、大清水久一、長井正純、櫻田博之、竹澤勳）

事務局：教育委員会事務局 佐々木 工藤

産業振興課 松山 小野寺

総務課 梅木 笹山

○開会

（教育次長）時間となりましたので、始めたいと思います。部会長さんから一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

○部会長あいさつ

（部会長）みなさん、こんにちは。大変忙しいところ、ご苦勞様でございます。また台風10号で被害にあった方がいらっしゃるかと思いますが、お見舞いを申し上げます。あの、特に久慈、岩泉にあたるような状況で、私もちょっと仕事の関係で毎日久慈まで行ってますけども。大きい道路だけだと少ないですけど、中の方はヘドロの海で、ヘドロと田んぼを田かきやったみたいだね、その中を走るという状況で、久慈の人たちも大変だなというふうな状況です。そういった中でまたあの12号も来そうなものですから、いざって時は、深く自分たちで対策を練ってなんとかしのいでいきたいなという風に思っております。そういった中で今日あの百人委員会の会合ということでよろしく願いしたいなと思います。協議終わってから研修会もあるようですのでよろしく願います。何はともあれ、いろんな台風が来たり、暑かったり寒かったり、いろんな状況にございますので、みなさん健康に十分注意しながら、毎日やっていただきたいと思います。以上でございます。

（教育次長）それでは、今日のスケジュールを簡単にご説明したいと思います。この後ですね、軽米交流駅ってあの元屋町の方に商工会、あと公民館、図書館等を兼ねた複合施設をつくらうとしています、町で。その建設検討委員会というのを各部会から一人委員を出してほしいという要請が来ております。その委員一人を決めていただきたいなと思ってました。部会長さんは町民会議、青少年育成町民会議の方でもう既に推薦受けてますので別の方を一人どなたか選んでいただきたいと思います。それからその後は、班ごとに協議をお願いしたいと思ってました。で、三時半から講演会がありますので、三

時頃を目途に終了していただければと思います。一番最後のページに今年度の日程をあげてるんですが、この後、第3回の部会が10月下旬から11月の上旬にございます。そこで取りまとめて最後は提言を取りまとめるという形になって、その次に昨年と同じ全体会ということになると思われまます。ですから、今日は3回目の取りまとめに向けた話し合いをある程度していただければということでございます。それでは、交流駅の委員なんですが、どなたがよろしいでしょうか。

(委員) どなたがいいって、だいたい決まってるべ。

(部会長) 基本的に、あの私のところに青少年育成会議の会長やってるんですけども、その枠で来てました。それ以外はだいたい部会長さんがやられるようです。ここの部会は私が抜けますので、あと副が国久さんになってましたけども。

(教育次長) 順番的に言えば国久さん。

(部会長) あと、みなさんそれでよろしければあれですが、俺がやるというのであれば。

(委員) ここで俺がやるといえば問題になるべし。

(部会長) いやいや、問題にはなりません。じゃあ、国久さんでよろしいですか。

→賛成多数

(教育次長) 今日見えてませんがこちらからお願いしておきますんで、よろしくお願ひしたいと思います。それでは、三時頃までこのあと各班ごとにお話し合いをお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

○議事 (観光グループ)

事務局：私の方からですね、前回の部会での話し合われたこと及び若干資料としてお渡ししたい部分があったので、皆さんのお手元の資料について最初に説明をさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。まず、最初の提言のまとめということですね、前回、いろいろお話が出ましたけども主に要旨としてはこのようなことではなかったかなというのをまとめておりますのでご確認をお願いしたいと思います。前回は6月2日、この場で部会があって、三つに分かれたと思います。提言でございますけども、括弧一といたしまして、八戸市民の取り込み方ってということが最初出されたように復命書にありました。五月の例えばチューリップフェスティバル後、すぐいなくなるのではなくて、民俗資料館とか名所とか寄ってもらうような仕掛けが必要なのではないかというのがあったようです。それから、物産館やミル・みるハウスの観光情報発信力が弱い。それから同じ、例えば民俗資料館を見させるにしても軽米だけではなく、管内の民俗資料館巡りというような企画等も考えられるのではということで書いてありましたし、町内だけに関していえば、春先のハートフルスポーツランドのシバザクラを見た後、歴史民俗資料館の見学コースを考えてみるとか、資料館には会議ができるホールがあるのでもっと誘客に有効活用すべきではないかというお話も出たようです。それから最後に、結論的な部分で出てましたけども、ミル・みるハウスの誘客につながる全面

的な施設の改築が必要だろうということが出ていたようです。大型バスの進入路の改善、レストランの改善、大人数に対応できるような形。それから同じレストランの味の改善。それから隣の産直施設の改善。まあ規模が小さい。それから晴れた日は国道沿いで旬の農産物の販売ができるように改善すべきだという意見がだされています。それからソフトクリームの販売場所の改善、奥の方ではなく前の方にもってくるべきだと、買いにくい。それから最後に物産交流館の土日休館はありえないという話が出て、今は土日も営業をしておりますのでその部分については改善されたということでございますね。それからまとめの方向としましては、ミル・みるハウスを核とした観光の活性化を図るべきということで、単発で終わるイベントを民俗資料館見学や他の部分の見学コースの設定ということで前は終わられたようです。最初の八戸市民の取り込み方ということも企画でいろいろあるんですけど、今年の企画です、荒澤委員からもお手伝いしていただきましたけども、森林ウオーキングって折爪岳から頂上から歩いてですね、ミレットパークまで歩いてくるということで企画しました。この企画、八戸市民は30人程度だったんですけども、40人超えた応募がありまして、最終的に36名まで認めて実施したものです。36人中、八戸市民が13名ですか、37%くらい。3分の1が八戸市民であったと。次が軽米町民で27%、次が一戸町、9名くらいで25%くらいというような参加状況で、募集の仕方によっては、むしろ町内よりは山でハイキングをしたいとかそういう方が八戸市民はよっぽどいるんだなというような気になります。そういうことも含めまして企画の仕方によっては、多くの八戸市民を取り込むようなことを類似の企画ではございませんけども、いろいろ取り込む余地があるのではないのかなというような気になっています。それから情報発信に関してでございますけども、軽米町観光&物産情報というカラーの2枚ものございますけども、これに関しましては、昨年度、軽米町観光協会のホームページを立ち上げてまして、それぞれのイベント等の紹介を今インターネットでネット配信をしております。併せてツイッターとかも活用しましてですね、いろいろ情報発信をしているところでございますけども、今は毎週金曜日、5分間だけですけども、エフエム岩手で軽米の観光とかイベントとか物産の情報について情報発信しておりますし、当面今月秋祭りがございますので、その秋祭り情報ですね、バナーになっておりますので、クリックすると詳細な情報を見ることができるというような情報発信を始めているところでございます。最後にですね、観光客入込状況ということで、3枚ものを皆さんのお手元にA4横でお渡ししました。こういう部会とかになると往々にして総穴的になって焦点がぼやけた議論になってしまって、なかなか上手くいかない部分が多いんですけども、2回目の部会の結論だとよほど絞られておりまして非常に感心しておりますが、やっぱり客観的なデータに基づいた提言というのがやはり必要になってくるのは当然のことではないのかなと。見方ですけども、上段の方は各施設の年間の入込客数ですね。27年度が1枚目、2枚目が26年、3枚目が25年、3か年に渡る各施設ごとの観光客、これが岩手県の観光協会の統計データの方にあがって、岩手県

全体の観光客入込客数にカウントされるというような状況でございます。下の方の小さい段については、それぞれイベントごとの入込客数ということで、年間の増減があるもののチューリップフェスティバルが1万7千人くらい、それから夏祭りが8千人から1万人くらいでしょうか。それから秋祭りは3万人から4万人くらいの間で推移しているというような状況がわかるかと思えます。この中でミル・みるハウスの年間入込客数でございますが、27年実績からしたら1万6千人くらい、26年が1万3千人くらい、25年が1万6千人くらい、まあ1万6千人くらいが年間入っているのかなと。月別にすると五月の連休あたりでしょうか、千人弱が一番多いのかな、まあ五月の連休というところはちょっと野菜がまだできてないのでもいいところなんですけども、状況からするとこのような状況になっている、こういうデータを基にですね、議論を深めていただければという風に考えておまして、資料としてお示しをしたというところでございます。そういうことでそれらを踏まえて、前回ミル・みるハウスを核とした観光振興活性化というところが最後の方にまとめて出たようなんですが、さらに今回方向としてご議論いただきまして提言に結び付くような形をお願いできればという風に考えておりますのでよろしく申し上げます。

(委員) 質問良いですか。入込数、ミレットパークとかカントリークラブ等は予約があるのでわかるんですけども、ミル・みるハウスとかフォリストパークの県外、県内の入込数の算出はどういう風に行っているのでしょうか。

(事務局) これはちょっと確認させてください。次に報告させていただきます。

(委員) カントリークラブってこんなに入ってるの。

(事務局) これは直接電話して聞いているデータとして出してもらっていたようなので。

(委員) その割にはミル・みるハウスは少ないもんだ。ミレットパークも少ないからちょっと多いような感じするな。

(委員) ミレットとかは申込でわかるんですよ。ミル・みるハウスの集計はどうやってやってるか、私はちょっと疑問なんですけど。

(事務局) どうでしょうかね、一定の割合を案分しているのか、何を基準にちょっとわけてるのか、ちょっと私のレベルだと想像できないので、その辺ちょっと確認させてもらいたいと思います。

(委員) ミル・みるの前、さっきちょっとちらっと通ったんだけど、車が20台以上いたよ。

(委員) いやわかるんですけども、数数えてるの見たことないし、レジだけだと人はわかるかもしれませんが、県内県外のあれはわかるのか…。

(委員) ちょっとわかんないんだ。確認するってらからそれでいんだ。おらもあそこで店やったりしたけども、わかんないもんな。

(事務局) だいたい、なんとなく半々くらいで振り分けしているわけでもないな。わからないですね。いちいちナンバー確認してるようでもないですね。ちょっとわからな

いです。確認してみます。イベントなどの時は、大体一台あたり三人程度乗ってくるといことでカウントしてですね、推計でやるしかないので推計でやらせていただいております。例えば、チューリップフェスティバルとか、そういうのはもう推計ですね。

(委員) カントリークラブさも、軽米町の特産のブースを置けば…

(事務局) 協力してもらえenと思いますね。

(委員) 税金が入る、軽米町に。

(事務局) 歴史民俗資料館の冬期間閉鎖ということもあるでしょうけども、ちょっと寂しいような感じで、もうちょっとなるとかならないのかなって、このデータを見るとですね。皆さんやっぱり歴史民俗資料館を一つの位置付けされているようなので。その辺ちょっと開館時間が問題なのか、何が問題なのかあれですけども。

(委員) 今はいつも毎日開いてるんですか。予約して開ける状態なんですか。

(事務局) 月曜日は休暇、火曜日から日曜日は専任で人がいる。土日も開いてる、普通の店と同じですね。観光パンフレットの9ページに載ってるそうです。この観光物産パンフレットを、去年更新する必要がありましたので、また新たに加除しながら更新をさせてもらってます。町内の主要な観光施設には置いてますし、お菓子屋さんとかですね、食堂屋さん、レストラン、その辺にも置かせてもらっております。まあ、できれば新井田社長さんからも今日一箱くらいもってってもらって宣伝してもらえばいいんだかなと思っておりましたけども。私の話はその辺で、皆さんお話し合いしていただければと思います。

(委員) いいですか。この前ですね、ミル・みるハウスに大きな観光マップ、看板の大きい。道の駅とか、サービスエリアとかにありますよね。ああいう風なやっぱり道の駅みたいな感じでもいいけど、大きな観光マップがあればね、立て看板の大きいとか、作った方がいいんじゃないかと。あそこはまず通り道だから。

(事務局) 議会答弁ではないですけど、お答えさせていただきますが、実はですね、あるにはあるんですよ。邪魔にするような形で邪魔者のように置いてあるんですよ。気づかないんです。これをですね、置き方きちんと考えて、進入路の邪魔になるとかミル・みるハウスの前に置きたいんですよ。それだとお客さんの邪魔になると、いろいろ難しいのはわかりますけども、ちゃんと有効活用するように考えていきたいと思っています。いいのがあります。

(委員) 誰も目に付かないって言ってましたんで。

(事務局) 誰も目につかない邪魔者扱いして、脇の方に追いやってるんですよ。

(委員) 俺も知らない。

(委員) 小学校から入る方ですよ。

(事務局) そうそう入口の方の脇にあります。

(委員) そうすると見ないもんな。

(委員) やっぱり入口というか、どこか休憩するところがあればね。そこみてここから

どれくらいかかる、フォリストパークまでどれくらいとかってわかればね。今ほとんど車で来るのが多いからね。そういうのはやっぱりいちいち求めなくてもわかれば。

(委員) 観光パンフレットは、二戸とかには置いてないんですか。

(事務局) 置いてないですね、ぜひもって行っていただければ。

(委員) 駅の周辺に二戸のものは置いてますよね。

(事務局) お願いしてみます。お願いすれば置いてもらえると思います。

(委員) 一戸のものも置いてあったりするから軽米のものも置けるんじゃないかな。

(委員) つらつげなく、置いた方がいいって、そういうのは。

(委員) なにゃーとの上の通路とか、ちょっとさしておくところとかもあるし。

(委員) 合同庁舎にもある。

(事務局) お願いしてみます。

(委員) 振興局に頼めばよかった。

(事務局) ついでに振興局にもお願いしてみます。

(委員) ねえ、こんな立派なものがあったのにな。

(委員) 今日何についてとかってありましたっけ。

(委員) 前回こういう風なものまとめたわけだよな。これを具体的なものにしていくためにということでないの。

(事務局) より深く、より幅広く…

(委員) ミル・みるハウスを核とするということで前回話したっけな。

(事務局) もっと例えば、サッポロビールとコラボして公設民営のサッポロビール園でビール飲ませるとこ作った方がいいんじゃないかとか。

(委員) あれ、今来てますよね。サッポロビールの社員研修で。

(委員) ミレットで、ホップ作ってる人にビール飲ませてらべ。焼き肉やって。

(事務局) 1日じゃなかったですか。

(総務課) もっと前から。

(事務局) 25、26、27から、そんな感じかな。

(委員) 俺さも来いというけど行かない。忙しいもん。

(委員) ミル・みるハウスのメインの出し物というか、あれは何なの。食べるのを含めて。

(委員) 軽米の特産品なんだべね。

(委員) 例えば、オドデ館であればさ、オドデ様があって何かがあるみたいな。

(委員) オドデ館もあれだもんね、あそこも大したもんでもないけどね。ただあの場所は確かにいいからね。

(委員) 人は入ってるな。

(委員) 一番の違いはやっぱり道の駅というのと、軽米のミル・みるはただの産直施設。その違い。道の駅にするという話もあったけど、それはないんだべ。

(事務局) いやでも議員が調べろというのもあって調べた結果、なかなか難しいなとなつて、そこで止まっているのではないかな、たぶん。

(委員) 今その金なんか国で出さないとと思うよ。よっぽどのところでないと。

(委員) 道の駅別のところにつくりたいという話があったんですか。それでちょっと今のところミル・みるはちょっと待てと…

(委員) いや、道の駅というのは難しいと思う。国でまず金出さない。特別なところにしかならないな。今、特別だといえば三陸のとかさ。復興のためにつくるとかさ。例えば浄法寺の天台寺の下に岡本小学校ってあるじゃん。あそこも道の駅にするという話だったけど全然進まないもん。進まないというよりも頓挫してしまっている。だから、道の駅というよりも産直施設ということで、施設そのものを考えていくしかないんじゃないか。

(委員) 町でタイアップしてさ、例えば産直、野菜であろうがいろんなとこ来てるよね。それなりの何かを大きくするあれはないのかな。例えば、好きな人だけ場所だけあれしますから好きなだけ勝手に売ってくださって、人が来なきゃ売れないしなまた。

(委員) いや、問題はね、農産物出してる人たちも、俺もミル・みるの会員なんだけども、ばあさまになって。それでもまず持ってくるから大したもんだけど、あと10年経てばあの人たち半分いなくなるんじゃないかと思う。だから、ちょっとあれだけでも、今の会長でなく前の会長の方が…直接しゃべればあれだけでも。会員を増やさないとときがあったんだよ。気持ちいだめなんだよ。小さく、小さくといったらいんだかさ。やっぱり会員を増やしていったらなんぼでも農産品を納めるようにしなきゃ。上山議員が大量にもってくるから持ってるような感じ。なかなか、続けていくというのもゆるくないと思うよ。入会金も前は安かったんだ、2万円とか。俺が入ったときは5万円とられた。そして、普通どこの会員でも退会するときはそれを返してよこすんだよ。それがいないんだミル・みるは。どうなってんだか。

(事務局) 規約があるでしょ、規約がなければ金取れない。

(委員) いやいや入会金5万円というのはあるかもわからないけど、退会時にそれを返すというのは…

(事務局) 運営をもう少し改善しないとまらないなという提言になる…

(委員) まあその辺は話し合いでね、提言なんだから。

(事務局) やっぱりオドデ館のように男が頭務めて、いるじゃないですか、二戸のカシオペアFMでいろいろやってましたけども。ああいう人が専任で一人いるくらいでないと上手くいかないということかな。

(委員) 産直ばかりでなく、食堂の方だって…

(事務局) 任せっぱなしで責任の所在が明らかでないもんな。

(委員) だからそうなればどうでもいくなるわけだ。黙ってたって給料入ってくるわけだし。

(事務局) 別に給料は予定されているわけだから、売れても売れなくても良くなるんだもんね。

(委員) そうそう、それが一番の良くないところなんだよ。例えば、九戸のオドデ館だって支配人いるじゃん。

(事務局) だから男のあの人みたいにさ。

(委員) 責任者がいてやっぱりビシビシとやるくらいでないば。なにがなんだかわからねんだ。

(事務局) 実は何年経ってもサルナシのあれが浮いてこないから、来年からちょこっとね、東京の人たちの地域おこし協力隊とか活用しようかなと思ってのんですよ。

(委員) ん、なにになに。

(事務局) サルナシの生産がなかなか上手く上向いてこないのよ。生産量が。

(委員) だからやっぱりそういうので言えることは生産者がいろいろ考える、感じ方があると思うよ。高く買ってもらえないとかさ。

(事務局) だから、同じ時期にたばことか、単価が高い方まず重点的にやって、サルナシ一時期購入しない時期もあったので、そっちの方は二番煎じなので、そっちまで手が回らない、高齢化もあるしね。手が回らないということで、町としては政策的に生産振興、生産量を増やしたいので、首都圏の方から地域おこし協力隊を活用して二戸市みたいにね、人を入れるかなと思ってのんですよ。来る人があれば、そういう人が今後産直なりレストランのチーフマネージャーの経験のある人を連れてきて、がっつり押さえつけてやらせるとかしてもおもしろいかなと、提言の方向を聞きながらちらっと思ってきたなという感じではいるんですけど。

(委員) 確かに大事だと思いますよ。

(事務局) やらせっぱなしだからこうだもんね。

(委員) まあ良くないというわけでもないんだと思うけども。だけどもやっぱりもうちょっとこうやり方あると思うんだよ。集客もそうだし、今までも食堂だっけに行けばなんぼか人が入ってるのは前のラーメン屋つぶれたからなんだよ。ラーメン屋がぱっとうまいのあれば全然行かないじゃん。やっぱり競争力もないとだめだし。どうでもいいのであれば味もどうでもよくなってくる。

(事務局) だから、前回の提言が出るわけですね。味の改善をしろとか。

(委員) 時間も割とはやく終わるんですよ。

(委員) 3時頃終わるんじゃない。

(委員) 今はもう焼肉とかはやってないんですか。

(事務局) いや、たぶん事前に予約すれば…お出しすることはできると思いますね。

(委員) ミル・みるは年何回か、何かイベントか、飲み放題かビアガーデンとか何かやってるの。

(事務局) いや、任せっぱなしだから実質ないですね。ただ年に1回ちょこっとしたの

はやった気がするけども。例えばオドデ館なんか正月明けからやってるもんね。新春のどうのこうのというの。同じように本当は企画して金持ってやってお客さんを呼び込む人が本当は必要なんですよ。

(委員) 野外ステージのような、なんかぱっとやるようなね…

(委員) ミル・みるは本来食堂と産直で、真ん中のあれは今は眠ってるんですよ。休憩所の奥にあるところ。

(委員) あつたらのいらねえもんな。もうあれ、効力あるのか。

(事務局) もう目的外使用しても大丈夫じゃないですか。

(委員) 真っ暗いしさ、昼寝するにはちょうどいいくらいのもの。

(委員) 加工施設もあるじゃないですか。

(事務局) 逆にあれですよ、野外ステージの様な組んでそういう小イベントでもいいからやって、お客さんにつなげた方がいいのではないかというのはちょこっと今枝葉がついた提言でいいですよ。あと、今の話は真ん中の黒いともなんとかしろみたいな。

(委員) そうやってやってけるんだばさ、産直の方も部屋あるじゃん。ああいうのも生産者がさ、すごい見栄え悪いんだよ、行ってあそこでコーヒー飲んだりしてる時。こっちで真剣になって売ってる時会員があそこでコーヒー飲んだりしてるんだ。やっぱり様々な部屋あってそこで休んだりして情報交換したりするところがないもん、全然。

(事務局) 会議室の様なもなかったですか。

(委員) ないない。物入れてるんだもんな。あれなんて、産業開発に言ってどけろって喋ればいい話なんだ。

(委員) あそこで本当はソフトクリームでも売ればいいんですよ。

(委員) あそこでソフトクリーム売ればすごくいいじゃん、窓際取っ払って。後ろより前の方が。

(委員) 明るくしないとだめだ。前回は喋ったけども、産直施設ちょっとせまい。

(事務局) 今の三倍は必要だもんな。

(委員) 建物そのものも少し明るみが欲しいよな。

(事務局) 広がり横の広がりは無理。後ろの広場も限界がある。国道沿いさ、別角で建てるしかないんじゃないの、産直。

(委員) 今、屋根があるところは何かですか。

(総務課) 本当はあそこで、物を売れるようにしましょうと屋根を付けた。

(事務局) たぶんイメージは、外で売れるものがあつたらそこを利用して売りましょうというイメージではないの。

(委員) 全然使ってないよな。

(委員) 提言でも何でもないんだけど、山ぶどうジュース新しいのできてきて、売った

んだよ、テーブルもってきて。それさも文句つけられたんだ俺。あんだ誰の許可を得てここさ出してらって。同じ会員から。やかましい、誰がここで売ろうが会に金やるのに、同じだべって言ったんだ。

(委員) 屋根の下で、ミル・みるの正会員ではなくても、売るのをやってもいいんじゃないかと思うんですけど。

(事務局) 産直とは真逆の方だもんな。たぶん、産直の人たちも離れてるから売りたいと思ってるかもな。そういう意味ではいいかもしれないです。提言としては。ただ会員になって売る方に関してはお金払ってるでしょ、まず。入らないと取扱いませんよというところのバランスですよ。やっぱりだから全くのただというわけにはいかないかもしれないな。

(委員) 商工会の青年部はね、軽トラ市で。盛り上がるよね。

(委員) 期間を決めてとか。

(事務局) 月一とか。

(委員) いや、会員でない人さ売らせるというのは難しいかもわかんね。なんとかって喋ると思う。

(事務局) だから、イベントとしての取扱であくまでも説得するしかないだろうね。誘客、つまりそういうことでお客さんを集めることによって、産直にも利益が行きますよ、とか。

(委員) そうそう、何%引くとか。

(事務局) お客様も行くし、最終的に購買力向上につながりますよというような説得の仕方じゃないと。

(委員) いや俺さ、友達が三戸の市場さいるんだけど、あんまり言ってはならない話だけど、オドデ館に行って買ってきて出してるらしい。自分でとって出してるのではなく、あそこさ行って落として、なんぼって安く買ってきて出してる。それもいいなと思ってる。

(委員) 実際、青森方面の産直行ってる野菜は高知から来たり、よその売ってますよ。ここの産物じゃないって、明らかに産地はどこどこって違うとこのやつ。それでもやっぱり買って行ってますよ。やっぱり揃った方が良いんですよ。偏るよりは。いろいろなものが。

(委員) だから、岩手県産とかって張り替えて出してるよ。

(委員) 張り替えるのはちょっと。

(事務局) でもメリットあるね。品揃え多いと、買いたくなるもんね。

(委員) ただ言えることは、上山農産なんてだーんと出してるからね。ものすごい量なんですよ、あそこを出してるのは。あそこに行って軽米のやつ買ってきてるのと同じような感じ。

(委員) やっぱりよっぽどいいのは別として、品数がある程度なければ…

(事務局) それするのであればやっぱり売り場面積広げて品数揃えていくしかないんだね。

(委員) 半端もの出すのが良い。半端ものを安くやって、それをみんなして行って買ってる。なんも味変わらないじゃん、見た目と。見た目悪くても味良いかもしれない。人と同じで。

(委員) あと、ミル・みるのいわゆる物産品、町内のお菓子とか売ってるじゃないですか。普段はあれでいいと思うんですけど、お盆の時にやっぱり町内だけだと、弱いんですよ。で、みんななにゃーとで買っていくんですよ。かもめの卵とか。かもめの卵がいいんじゃないかと、町内のお菓子もいいけども、東京に帰る人はそれだけだとダメなんですよ。奥さんの実家に持っていくのと、会社に持っていくのは明らかに違って、会社に持っていくのは小さいかもめの卵の20個入りの方が便利なんですよ。良くて高いのだけだときついですよね。いろいろあった方が。普段は良いんですけど。帰省シーズンは、せっかくお盆の帰省客を逃がしてるんじゃないかと。

(委員) 産直施設と、ミル・みると分けて話するべ。分けて話した方が良いんじゃない。

(委員) ただ統合していかなければならないのは、全体の施設を取りまとめる人が販売促進でいいんですけど、さっきから出てるように一人いた方が絶対良いんですよ。で、産直と食堂の方が全然別だからバラバラになっている。中間もあいまいな状況であると。

(委員) 産直は産直さ貸し付けている。金はとってないけども。ミル・みる会でやれということ。だから、いずれそれはそれでいいとしても建物はそのままでもいいかといえば物足りないところある。

(委員) というか、経営が違うのはこっち側の話であって、観光客からすると全く意味がなくて、あの施設はミル・みるハウスなんです。そこでミル・みるハウス一つ全体をパッとしないのは、誰がどういう風にやっていくつもりなのかバラバラだと、結局中途半端なまま行ってしまうと思います。やっぱりあそこを一つの施設として統一した見方、展開をできるように誰かがやらないとダメ。

(委員) そこなんだよな。

(事務局) ミル・みる会とレストランの運営の部分の上に立つ人が必要だということですね。

(委員) 産業開発は関わっているの。

(事務局) レストランの方に関わっています。物産、販売。あと建物の管理ですね。

(委員) 建物の管理するなら、人も管理すればいい。もう少しきちっと。

(事務局) 管理するにも、人それぞれの能力も必要だし。

(委員) 俺がもう少し若いば行ったのにな。

(委員) ただ本当に観光を考えるのであれば、あそこをきちんと一つのミル・みるハウスとしてもっと盛り上げる責任者がいないとダメだと思います。

(委員) そういうことだな、責任者を置かないとダメだと。

(事務局) 成功体験のあるノウハウのある方を連れてくればいいのかという気もしないわけでもない…例えば、葛巻の小岩井農場から当時の課長さん連れてきて立ち上げて、工房とか立ち上げて今に至ってるわけですけど、前町長さんが毎日頭ぶん殴られて稼がないばならなかったと喋っていましたが。今の形に持って行ったということはやっぱりそういう成功のノウハウを持ってる人がそこまで高めてってくれたおかげで、あそこまでいったということなんじゃないかなとは思いますが。

(委員) あそこはやっぱりそれぞれのところに責任者ちゃんとした人置いてるもんな。

(事務局) 前町長が、軽米でいう産業開発みたいなところに職員で入って、そこに小岩井農場から連れてきて立ち上げたって言ってましたよ。宿泊施設とかアイスクリームつくるとことか。ゆるくなかったって言ってました。

(委員) やっぱりそのくらいの人でないとだめだ。

(事務局) それくらい稼がないと成功できないって。

(委員) 前回にもちょっと話したんですけど、やっぱり町の方から二戸方面に向かっていくときに、入口がね、わかりにくいんですよ。地元の人にはわかると思うんだけど、本当に直前に見えてくるじゃないですか、あの看板がね。何メートル先に駐車場とかっていうような、具体的ななんかね…

(委員) 前の花壇いらないよな。

(事務局) 民間だと、なし崩し的に歩車道境界ブロックを取っ払って好きなように進入路を作ってしまうんですけど、一応道路法というか法律的な運用の話をするれば、十字路から50メートル以内には進入路作るなという決まりがあるんですよ。で、ローソン見れば勝手に作ってるしね。でも、行政が歩車道境界ブロックを取っ払ったといえ、絶対許可降りません。

今度は道路維持パトロールカーにつかまるんですよ。なかなか、許可ということはできないんですが、事前にあるよというのはやっぱり必要だし、大型バスも入っていきやすいような改善の仕方は考えていかなければならない、というのは認識はしています。ただ民間のように好きなように取っ払ってというのは、うちが主体的にやるとすればできない。事故が起きやすくなるので。

(委員) じゃあ、50メートル以内には建物つくるなということになるな。

(事務局) どっちが先かという話もあるけどね。

(委員) でもなんか、入りやすい入口が欲しいよね。変なところ入って変なところ出ていくよりはさ。誰でも簡単に、それこそ大型バスでなくても簡単に休憩できるような。

(事務局) トイレ側は横の拡幅はちょっとあまりどうかな、限界かな。限界かもしれないので、学校のとおりお金かければ改善できると思いますね。アーチといいますかゲートを再考慮したり原因を考慮すれば。

(委員) 学校の方は入りづらいうって。

(事務局) でもトイレあるからな。どれくらい可能かどうかという話ですよ。専門家

から見てもらうしかないな。案内看板で相当改善されるのかもしれないし。

(委員) 普通のコンビニでもどこでもやっぱり大型駐車可能とかさ、そういう風なのついてるよね。そういう風な面でやっぱり大型観光がきたとき、ここには車も停めれるよというのがあれば…

(委員) あっちのローソンはすっかり 50 メートルのところに通路できてるじゃん。

(事務局) 民間はいいことじゃないですか。俺が地域整備課の時はだめだった。だからたぶん、十字路から 50 メートルくらい離れたところに進入路作ったと思いますよ、当時は。

(委員) まあでもそれちょっと一番の問題、お客さん入ってこないとだめだから、それなんとかすることだな。

(事務局) 目の前にサルナシ園つくったみたいだしな。まあ撤去するのは簡単だけど。その辺はまあ聞いてみます。ゆるやかになったかもしれないので。そしたら真ん中らへんにずどんとね。なんとなくあの産直の広がりだな。もっと売り場面積からすると別棟建てたくなるもんな。

(委員) ミル・みるの右側入っていくところ、あそこに足しただけでも違うと思う。増築だったらなんとかなるべよ。そんなに金出さなくても。

(事務局) すぐまた金なくなったとかって喋りそうな気がするけどな。

(委員) そのくらいいいんじゃないの。ただでも店出すのなら、この人の母ちゃんならまだ若いもんだんだ、あとみんな腰まげて歩いてるんだよ。たまげたんだよ。

(事務局) なんとか生きてるうちはと思ってるんじゃない。

(委員) まあでもそんなもんだべな。入り口つくる…できれば、暗いところをもう少し全面的に使うにいいような…昔の縛りがあるからって、なんだりかんだりされないとかさ。

(事務局) そういう時もあったと思いますよ。

(委員) 今はもう時効だべ、そんなの。

(事務局) もう会検も来ないんだし、好きなように… 目的外、変更になるのか…

(委員) そこちょっと調べておいて。

(事務局) はい。増改築が可能かどうか。町単でやろうと思えば問題ない、補助をもらおうとすればね。

(委員) 当然よ。あんなとこちょこつとやるだけで補助なんてないべ。補助とかそんなの頼るようになればだめだ。

(事務局) 産直で入会金いただいているのは積立金かなんかにしてるということ？何の意味があるのか…資金の基盤強化のために…

(委員) それでもないんだよ。だからおかしいなと思ってる。

(委員) あの販売員の方は、売上の中から…

(委員) そうそう売り上げの何%。俺たちも何%かとられてるわけだ、まずよ。それを

総売上の何%かを引くわけだ。それを全部積み上げたので売り子さんに払ってると。あと役員の人になんぼって払ってるわけ。

(委員) それが高いんだよね。

(委員) なんなんだかおかしいんだよな。それはそれでミル・みるの人が考えればいい話なんだけど。話聞けば、会長なんてのも様々な会計があって大変そうだけ。

(委員) 何年かごとに代わってますよね。

(委員) 代わってるんだよ。だからその入会金も最初払った人は2万円だった。それが3万円になって、俺の時は5万円になった。5万円儲けるのは大変なんだよ。おかしいと喋ったけど、どこにもないんだよな。他のところはやめるとき返すんだけど。おいらせ町のところに出したんだよ、あそこは2万円とられた。でもやめたときは返ってきた。今はおいらせのアグリの里でも会員になってるんだけど、あそこは入会金無し。それはやっぱり店を拡大するために。もともとアグリの店にいた人は、やりたかったら来てくださいただですよって。その割には売れる訳ではないけどさ。

(事務局) あとあのレストランの方は、何か補足ありませんか。

(委員) レストランの方は、だから支配人だ。

(総務課) 遅くまでやったらいいのでは。

(事務局) 支配人。営業時間の延長。

(委員) 四時頃になれば真っ暗だべ。幽霊出てくるみたい。

(委員) 前はやってましたよね、もうちょっと。5時くらいまで。食べに行ったことある。

(委員) 3時頃でやめるじゃん。

(事務局) 一応6時までやってることで…レストランは3時。

(委員) 理由としては、夕食まで食べる人が減ってきてほとんどいなくなったからっていうんですけども、でもそうやってやると悪循環になっていくんですよ。

(事務局) そうじゃなくて、夕飯を寄って食べてもらうような商品開発しないとだめじゃないの。

(委員) そういうことだな。

(事務局) 人が来ないとかやっぱり、支配人がいないことがそうだもんね。お給料が確保されてれば、もうなんぼ売ろうが売るまいが関係ございませんだ。

(委員) レストラン3時で終わりだな。3時で終わり、レストラン。

(事務局) 本気になってもらうためにはどうすればいいのかな。

(委員) 少なくとも、期間限定でもいいから、例えばお盆だとか、そういう帰省する人がいるときは時間延ばすとか。

(事務局) お客様が見込めるような時期だけでもすべきだということ。

(委員) せっかく帰ってきて、軽米牛を食べさせたいとかっていうこともあるんじゃないですか。

(事務局) たけさわストアでA5ランクの軽米牛をお盆に買ってきて、東京から来た人にバーベキューさせて食べさせたけど、うまいなと喜んでました。私が食べたならそんなに変わらないなと思ったけど。一切れ三千円くらいだったな。

(委員) 皆川牛だっていいじゃん。和牛だったらみんな同じようなもんだべ。一回食ってみるべ。

(事務局) サシがよっぽど入って…油まみれの牛だと思うよ。

(委員) だから短角牛の方がいいんだって言うもんな。

(事務局) 市場に行くまでに死ぬかどうかとかって。でもおいしいんだもんね、食べる人が食べれば。一回食べてみないとだめだな。

(委員) 役場で金出せばなんぼでも食ってける。

(事務局) 視察研修はミル・みるハウスでA5ランクの肉だな。何か商品開発のヒントを一つでも二つでも、食べながら…

(委員) とり天井も軽米の特産品っていうことになってるんですか。

(委員) いや、あそこで使ってるのはあんまり関係ないんじゃないですか。想像ですけど。だって牛丼だって、軽米の牛じゃないでしょ。

(委員) ポリュームがあって安くていいのさ。これと牛丼が安いんだよ。

(事務局) これはこれでいいけども、例えばから揚げ、別な味もあるじゃないですか。香川で全国的に香川産で流行ってるから揚げってあるんですけども、それを例えば掛け合わせてこれはこれ、香川産のから揚げ丼がこれだっていうのを発展的にやるとか、これを一回開発したからずっとこれではお客さんが右肩下がり。その次の発想っていうのをやっぱりしてもらわないと。盛岡駅前の通りにあるんですけど、食べさせてくれるところが。沢内甚句とかっていう店だったと思うんですけど。大変味が良い。から揚げもいろんな種類があるので、これはやだけど、別なから揚げだと注文するという人もいらっしやると思うので、メニューの幅というかそれをもっと、例えば鳥で売っていくというのであればそれをやっていかないと、一回どんと打ち上げてずっとそれで、その発想が信じられないという…

(事務局) 悪いのはあれじゃん。一戸の市野辺パンでイチカラだかなんだか。最初なんぼかいたけど、今全然いないじゃん。一戸のあべどりだったか。すごく出てたけど。

(委員) かんぶんの中にもお店があったけど、今なくなりましたよね。

(事務局) 撤退したみたいだもんね。

(委員) 割合に高い、から揚げって。

(委員) 今、一戸のパン屋さん、直売所の前ではやってはいるんですね。

(委員) やってるやってる。やってるけども人がいない。前はいたけど。

(委員) 時間かかるもん。車で待ってなきゃない。

(委員) あれも商売にならない、2人か3人あそこにおいて。

なんだかまとまったようなまとまらないような。なんか不完全燃焼だな。

(事務局) では、あと一つくらいどんと。

(委員) ちょっと焼酎でも出てこないと…昨日も話したもん。昨日はグランドゴルフの反省会に行って…

(委員) これを見ると物産交流館の休館日も変わったというね、提言…

(事務局) そうですね、土曜日閉館だったと思いますが…今は開けました。

(委員) サッポロビールの研修で来るのは今年何回か見たんですけど、町の方も受け入れ関わってるんですか。

(事務局) 直接、産業開発の方に。支度といたしますか、それが行ってまして、特産品を使った材料とか、一部田子とかホップの生産者も一部二戸もいるので、二戸の材料仕入れたり、田子のニンニクをもってきたり、概ね軽米のものを食べさせてるみたいですね。そんな感じで田子と二戸と岩手町とコラボしてやってる感じですね。

(委員) 前よりも多く来てもらってる…前は年に一回くらい見たんですけど、何回か見てるんですよ。

(総務課) 今年はたぶん増やしたかもしれないです。収穫ツアーといって首都圏の方からお客さんを、ホップの収穫みてもらうという…

(委員) お客さんを連れてくるんですか。

(委員) 今ミレットに行ったのはホップの生産者なんだべ。

(総務課) そうですね。収穫をまず見てもらうと。そういうので呼んだみたいです。

(委員) それはどういうもんなんだべ、金はサッポロビールも出すのか。

(事務局) 金の出どころはサッポロビールだと思います。もちろん自己負担もあると思いますけど。

(委員) 生産者ばかりでなく、俺にもなんぼか飲ませたらいいんじゃない。

(事務局) あれ、忙しくて行かなかったって喋らなかったですか。

(委員) いやだって行ってジュース売ってけろって、私が行かなくてもあなたたちで売ったらいい話。どうせ儲けがそっちに入るし。

山ぶどうもピロピロと伸びて。誰か俺のところにボランティアで来ないかな。

(事務局) 地域おこし協力隊の女性でも呼んで剪定の仕方教えて、荒澤さんから引き継いでもらえばいいと思う。

(委員) 誰かやってほしい。俺もあとなんぼかで死ぬと思う。

(事務局) それを見越して引き継いでもらえば…

(委員) 役場やめて俺のところに来て。こんなところにいるより…

(委員) 観光でもなんでももう少し、一時的なものじゃなくて、先を見越したものが…

(事務局) 一応、いつの時代だか観光ガイドっていうのを作ってるんですよ。すべて観光になりえるような施設とか神社仏閣とか風景とかすべて網羅してあるんですけど、もう観光資源の発掘とかそういうの必要ないと思います。いつの時代だかわからないけどもすべてついているので、これを活用していくというか情報発信していくかじゃないかな

とっているんです。つまり会社でいえば営業力が弱いこと。エフエム岩手の舘澤さんにもこないだ委員会で喋って、「軽米は営業力が弱い」情報発信力が弱いことじゃないですか、行政も民間も。そこに尽きると思いますね。地域資源はもう完璧におさえています。なんということない風景でも都会、首都圏の一部の人からするとすごい癒されるみたいなのが風景としてあるそうです。

(委員) 都会の人というのは何も無いところに来たいもんなんだよ。本当はよ。

(事務局) 海外からも何回も日本を訪れる人はそんな感じだそうですよ。有名地は避けて、なるべく。人のいないところ、何も無いところに行きたがるという。

(委員) 何も無いところが一番いいんだって。

(事務局) そういう意味では軽米は注目を浴びるのではないかなと思って。

(委員) 何もしないところでか。情報発信もしない…

(事務局) いやいや情報発信はもっと強化しないとだめですよ。

(委員) この前も別なハイキュー関係で地域振興セミナーってあったんですけども、今支援しているわ・かるまいの集まりの時に、案内状・アンケート 8月の2日から27日までに男性30名女性98名合計128名のファンが来ました。で、8月一か月で夏祭りにも参加してくれたりしてるし、結構北海道とか一番遠くで山口、あと海外は韓国とタイからも来てくれたそうです。ただ、一つ問題があるのは出版社との兼ね合いがね、聖地としては認められていないと。あくまでも仙台が聖地なので、あまり前面に出してほしくないということで…おもてなしするにも難しいところあるんですけど、でもやっぱり知ってる人は知ってる人で来るし、今来た人たちにはできるだけおもてなしをしようということで、町の方からも補助を受けてやっている…こういう人たちにもいろいろミル・みるだとか、町内の方にもなるべく寄ってもらってね…あとは一時的なものというかね、期間が限定されるものかもしれないですけども、それで一回でも来てくれてまた来たいって人があれば先にもつながっていくのかなと…

(委員) 軽米には全国的に有名っていうのがこのハイキューくらいじゃん。そうじゃないと軽米って知らないよ。出版社の兼ね合いもあるだろうけど、大いに利用して、役所がだめだったら商工会がやるとか…前がだめだからじゃなくて、交渉してみても何とかしていかないと。

(委員) なんでも温泉なんかでも、いいよといえば行く、良くないっけよといえばもう行かなくなる。宣伝の仕方…

(委員) ハイキューって、なぜだかおぼないさん…

(委員) すごく宣伝してるみたいで。二戸の人でもまず恩恵を受けてるってことでね。

(委員) あとやっぱり観光協会もガイド協会も協力しなきゃだめだな。ガイド協会ってやってるのは2人か3人なんだもん。兼田と俺と山根で三人なんだ。

(委員) 俺もガイド協会入ってるけども、何がどうなってるか全然わかりませんが。ガイド協会ですら何ががあるのかもわかりませんけど。

(委員) ガイド協会にとりあえず役場とか要請があれば、ガイドして歩くという。

(委員) だから、ガイド協会に私も入ってるんですけども、いつ何があるのかっていうのが。

(事務局) 年間の行事計画とか案内が何も来てないという意味だべ。

(委員) あれ、商工会か事務局。兼田か。それも怠慢だ。俺会長だからよ。

(委員) だから、動いてるの2、3人しかいないと言われても動いてるの知りませんでしたんですよ。

(委員) チューリップ祭りには案内してちょうだいって…

(委員) けども、動ける日は埋まってしまいましたからじゃあ今回はってなったんですよ。

(事務局) ガイド協会の組織強化も必要ということで。

(委員) そうだ。やっぱり兼田でいいのかな。あれでいいかというよりも、あそこの商工会で事務局もってていいのか。

(事務局) でも町にもってきても耐えられない。無理だ。商工会になんとか頑張ってもらいたい。

(委員) 観光協会をミル・みるハウスの真ん中に設置できればいいんですよ。で、別にあそこを観光協会が借りればいいんじゃないですか、産業開発から。家賃はどこにあるんですか、産業開発ですか、役場ですか。

(事務局) 家賃っていうのはない。

(委員) 観光協会っていうのは普通の温泉とか、金田一にはありますよね、独立して。あそこに電話すれば観光協会でいろんな案内をする。他のところにもいろんなのありますけどっていう風に…インターネットで調べれば早いだろけど一応わかんないときは…

(委員) 今のガイド協会と観光協会の取り消し。俺ちょっとやってみるわ。いいような。総会もやってない。

(事務局) 今、交流駅の構想があって、商工会が交流駅の中に入る予定なんですよ。その中の一角に、別組織として一緒に職員入れながらやってもいいんだかなと。極端な話、商工観光グループがそっちに行くとか。

(委員) なにゃーとの2階に入っているのは…

(事務局) 商工観光流通課ですね、二戸市の。今は合庁の方に移りましたけども、ずっと入ってました。

(委員) 合庁も振興局もガラガラになった。

(事務局) だんだんに手を引いてきたもんね。

(委員) そろそろ時間だな。ちょっとまとめて。

(事務局) 支配人、責任がある人を置くということ。

(委員) そして意識改革をして、集客するという。あと産直については、できる限

り売り場面積を確保する。それちょっと調べてもらえれば。あと入口。入口なんとかならないか。

(事務局) あとレストランの方は。

(委員) レストランの前にやっぱりミル・みる会との調整もあるでしょうけども、一般の人も販売する日を設けるのを可能かどうかを検討材料として。

(委員) それはいいんじゃないですか、検討する分には。役員会の総会でかければいい話。まず、例えば会員ではない人が行って何%そこに納めればいい話だと思う。ただそれでもうるさいのがあるかもわからない。5万円とられてると…

(委員) それをだからミル・みる会の、あそこでの位置付けと全体の施設をどう考えるかを調整して検討していかなければならないと思う。

(事務局) あそこの全域をミル・みる会が販売権を持ってることなの？産直の方の中で売る権利を持ってるだけじゃないの？

(総務課) 店舗の一角を借りてるというだけだと思います。

(事務局) だって、テーブル持ってって売ってたら何の権限があってここで売ってるって、同じ会員から喋られたら…なんだか変な話だなって。増して怒られるんじゃないかと思って。会員に対してそういう口きいたってことは、関係ない人がやったら…

(委員) だから公の場で少し検討していかなければだめだと思います。あの会員の中でやるとちょっとややこしくなる。

(委員) イベント的に…

(総務課) ミル・みる会が利用料を払ってる。電話賃なのか何賃だかわからないですけど、借地料として払ってるのか、それこそ何か別な形で払ってるかはわからないんですけど。総会資料みればわかると思います。

(事務局) あと何か…そこらへんですかね。

(委員) あとメニュー開発をもう少し積極的に。

(委員) まずすべて集客を、どのようにすれば人が集まってくるか考えるということだ。それはちゃんと掃除することもあるし、整理整頓もあるし、接客の対応というのものもあるし、当然うまいのを食べさせろというのものもあるし。

(委員) 前に一回試食会やったことあるな。メニューはなんだったか覚えてないけど。

(委員) 今は、たぶん産業開発と町長が行って、新製品が出ると、試食してるじゃないんですか。

(委員) 1回目は仕方なく食うけど、2回目食いたくなるような食べさせろということだ、まず。2回目食いたくないもんな。

(委員) ただ、産業開発の、大げさに言うと行革が必要だね。

(事務局) 成功体験のノウハウがない人達もやってるから難しいんだよな。それどけて新しい人連れてきたらいいと言われればそれまでだけど、それだと難しくなるし。

この辺で終了したいと思います。よろしいですか。お疲れ様でした。